

1 単元名 「私達の生活と環境Ⅱ 白方のお米を世界に広げようプロジェクト」

2 児童の実態

本学級は、米作りや野菜作りを行っている家庭が多く、農作物をととても身近に感じている児童が多い。前単元では、日本のおいしいお米を世界にアピールしたいという児童の思いから、衣装ケースでの米作りや米についての調べ学習を通して、「米と環境」についてのつながりを学んできた。また、昨年度にアメリカと交流していた6年生の「ビデオレター発表会」に参加した児童が多く、外国の方と交流してみたいという意欲の高い児童が多い。そのため、日本と同様に米が主食であるネパールと交流することをとても楽しみにしている。さらに、2学期には、フードマイレージや食料自給率の調べ学習、家庭科での調理実習を経験したことで、学習の成果を世界に発信したいという意欲がさらに高まってきている。しかし、発表をしたり友達の発表を聞いたりすることが好きな児童が多いものの、調べたことや自分で考えたことを工夫してまとめたり、分かりやすく発表したりする技能が十分に身に付いている児童は少ない。

3 ESD の視点に立った学習指導について

(1) 教材について

本単元は、これまでの学習を基にしてビデオレターの作成を行うことで自分達の調べたことを分かりやすく表現し、発信する力を身に付けること、さらには外国との交流を通してお互いの文化を理解・尊重し合うことができるようにすることをねらいとしている。外国語活動と関連付けて学習を進めたり、ジェスチャーや写真・動画等を用いて自分の思いを伝えようとしたりすることで表現力を高めることもできる教材である。これまで児童は、米についての調べ学習を行い、ポスターセッションや祖父母参観での発表を経験してきた。そして、本単元では、日本と同様に米を主食としているネパールへ向けてビデオレターを作成するために、学級やグループで協力しながら分かりやすい表現方法を考えさせることができる教材である。白方のお米を世界へ広げようという子ども達の思い（ビジョン）を基に、ビデオレターを作成して交流することをゴールととらえている。できれば YouTube 等の動画サイトにもアップしたい。

(2) 持続可能な社会づくりとの関連

世界にはたくさんの環境問題があり、それらは食と密接につながっているものが多い。本学級の児童は、食や環境の問題について考え、フードマイレージや食料自給率についても調べてきた。これらの問題を解決するために、世界の人々と協力し、よりよい未来を築くために協力して生活する必要があることに気付かせたい。これは、「持続可能な社会づくりの構成概念」のうち、「Ⅲ相互性、Ⅴ連携性」にあたる。また、本単元では、ビデオレターの作成を通して自主的・計画的に学習を進める力を身に付けさせるとともに、これまでに学習したことを表現させ、お互いの文化について理解・尊重をさせたい。これは、「Ⅰ多様性」にあたる。現在の日本は、どんどんグローバル化が進んでおり、今後外国の方と接する機会が増えていくことが予想される。そこで、外国人と積極的にコミュニケーションをとり、異文化を尊重して互いの考えを理解し合うことが重要となる。相手意識を持って自分の考えを積極的に伝えることや、進んでコミュニケーションをとり、よりよい未来のために自分からアクションを起こすことの大切さにも気付かせたい。これは、「Ⅵ責任性」にあたる。これらの構成概念を考慮し、学習を進める中で、今後、どのような生き方をしていけば良いかという持続可能な社会の視点を育てていきたい。

(3) 本単元の学習指導で重視する能力・態度の内容とその指導

＜多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞

ビデオレターで「何を・どのように」伝えるのかを考え、撮影計画を立てて取り組むとともに、写真や映像、言葉を組み合わせてより分かりやすく伝えようとする力

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

ビデオレターの作成や読み解きにおいて、友達と考えを交流し、自分の考えを深めるとともに協力してビデオレターを作成しようとする態度

＜さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度＞

外国との関わりに関心を持ち、自国の文化を大切にするとともに、外国の文化を尊重しようとする態度

＜よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的・計画的に取り組む態度＞

ビデオレター撮影に計画的に取り組み、自分達の考えを表現し進んで外国とコミュニケーションを取ろうとする態度

これらの能力・態度を育てるために、本単元では次のような点に留意して指導を進める。

- ① 作成した絵コンテやビデオレターをお互いに見合い、話し合う時間を十分に確保し、ネパールに自信を持って自分達のメッセージを伝えることができるようにさせる。
- ② ビデオレターのメッセージを大切に撮影計画を立てることで、見通しを持ってビデオレターを作成することができるようにさせる。また、グループごとの映像のつながりにも目を向けさせることで、1つのストーリーとしてビデオレターを作成させる。
- ③ 社会科「わたしたちの生活と食料生産」、家庭科「食べて元気！ご飯とみそ汁」、総合的な学習の時間「ブナ林に行こう」と関連させて学習を進めることで、「食と環境」の関係について常に考えながら学習させる。
- ④ 相手意識を大切にし、外国語活動で学習した表現やA L Tを活用してビデオレターを作成させる。

4 単元の目標

ビデオレターでの作成を通して、自分達の学んだことや考えたことを分かりやすく表現することができるようにするとともに、異文化を尊重し、進んで外国と関わろうとする態度を身に付けることができる。

5 指導計画と評価規準（本時14／20）

段階	主な学習活動 (時数)	多様な観点と見通し (学習方法)	交流と協力 (他者や社会)	つながり (他者や社会)	主体的・計画的 (自分自身)
課題 の 設 定	＜ネパールについて調べよう＞(3) ・ ネパールについてのイメージマップを描く ・ ネパールについて調べたことを発表し合う。	日本とネパールとの違いに着目し、たくさんの視点からイメージマップを描いたり調べたりすることができる。	友達の考えを聞きながらネパールについてのイメージマップを描いたり、発表を聞いたりすることができる。	外国とのつながりを大切にし、ネパールの文化や習慣について理解することができる。	自分がどんなビデオレターを作りたいのかについて、具体的なイメージを持って調べ学習や発表に取り組むことができる。
情報 の 収 集	＜伝える内容を決めよう＞(5) ・ ビデオレターで伝えたい内容を話し合い、グループ分けを行う。 ・ カメラワークについて理解する。 ・ 伝えたい内容をもとに、絵コンテを作成し、撮影計画を立てる。 ・ 絵コンテの発表会を行う。	メッセージを明確に持ち、どのような内容を撮影するのかについて考えている。 相手意識を持ち、ビデオレターがより分かりやすくなるよう考えて絵コンテを作成している。	これまでに学習してきたことや、考えたことを基に、ビデオレターでネパールに伝えたいことを話し合うことができる。	食と環境、人々とのつながりを大切にしてビデオレターの内容を決めることができる。	発信につながるよう考え、ビデオレターの絵コンテを作成したり、撮影の順序を考えて撮影計画を立てたりすることができる。
整理 ・ 分 析	＜ビデオレターを作成しよう＞(9) ・ 絵コンテをもとにビデオレターの撮影・編集を行う。 ・ 中間発表会を行う。＜本時＞ ・ 反省を受け、ビデオレターを修正する。	カメラワークの違いを理解し、メッセージをより分かりやすく伝えることができるよう撮影したり、編集したりすることができる。	友達と協力しながらビデオレターの撮影・修正をすることができる。	食と環境、人々とのつながりを大切にしてビデオレターを撮影したり、編集したりすることができる。	見通しを持って、進んで役割分担をしながらビデオレターの撮影をすることができる。
ま と め ・ 表 現	＜今までの活動を振り返ろう＞(3) ・ 全校生の前でビデオレターの発表会を行う。 ・ ネパールから返って来たビデオレターを見る ・ ネパールについてのイメージマップを描き、これまでの活動の振り返りを行う。	作成したビデオレターの良かった点や、来年度に生かせる点を話し合い、考えをまとめることができる。 ビデオレターを見て、分析的にメッセージを読み解くことができる。	感想を交流し、協力してビデオレターを作った達成感を味わうことができる。 返信ビデオレターのメッセージを考え、友達の意見も聞きながらメッセージを読み解いている。	ビデオレターによる交流を通して、外国と協力したりコミュニケーションをとったりすることの大切さを理解することができる。	作成したビデオレターを見て、良かった点や来年度に生かせる点について、自分の考えを持つことができる。

6 ねらい

中間発表会を行って自分達の作ったビデオレターについて説明するとともに、6年生や参観者から意見をもらいながら、ビデオレターのメッセージをより分かりやすくするにはどうすればよいかについて考えることができる。

7 指導過程（本時）

段階	学習内容・活動	時間	○ 指導上の留意点 * ESDの視点に立った留意点 ・ 評価 <ESDで重視する能力・態度>
導入	1 本時のめあてをつかむ。 (1) ネパールの写真や映像を見る。 ④ 中間発表会を行い、メッセージをより分かりやすくするにはどうすればよいか考えよう。	3	○ 初めてビデオレターを見る人（本時は6年生や参観者）に自分達のメッセージが伝わるよう発表することを確認する。 ○ 発表する児童に、ネパールの写真を20秒程度の動画で見せることで、相手意識をきちんと持たせる。 ○ 4グループ全てが同時に映像を発表するワールドカフェ方式で進めさせる。5年生グループは、前時の続きから発表することを伝える。発表者以外の児童は訪問者となって他のグループの発表を聞き、付せんにコメントを書かせる。
展開	2 中間発表会を行う。 (1) 映像を見合い、付箋に考えを書いて話し合う。 ・ 「お米の育て方」 ・ 「お米の自給率」 ・ 「お米の品種」 ・ 「お米料理」 (1グループに掛ける時間は約17分) (2) 隣のグループへ移動し、映像を見合い、付せんに考えを書いて話し合う。 (発表者と訪問者を入れ替える) ・ アップやルーズを使い、伝えたいことを強調した方がよい。 ・ もっと見やすい写真があるのではないかな。 ・ 字幕だけでなく、セリフを英語にした方が分かりやすい部分がある。 ・ こんなセリフにすればよいのではないかな。 ・ 早口過ぎて分かりにくい部分がある。 ・ 音楽はどんな曲が合うのかな。 ・ 強調したい写真はもっと長く見せたい。	34	○ 6年生の訪問者も4つに分かれて各グループの映像を見させる。参観者には、必ず付せんを書いてもらうよう児童に声を掛けさせる。 ○ T2は、どの児童も付せんを書いたり、自分の考えを表現したりすることができるよう各グループを支援する。 * メッセージは何だったのかをクイズ形式で答えてもらうことで、メッセージが伝わったかどうかを確認させる。 <交流と協力> <多様な観点と見通し> ○ クイズの答えはフリップで準備させ、付せんに意見を書く際の視点をはっきりさせる。答えを発表した後に、映像作りで迷っている点を訪問者に伝えてもう一度映像を流し、よりメッセージを分かりやすく伝えるにはどうしたらよいのか訪問者と一緒に考えさせる。 * 訪問者には、「自分が初めてビデオレターを見る人だったら、内容がきちんと分かるかどうか」という観点で映像を見させ、付せんを書かせる。また、発表者には、見てほしい観点到に沿って話し合いを進めさせる。 <多様な観点と見通し> (付箋の色・赤：よかった点、黄：分からなかった点、青：改善点・アドバイス) * 意見を書き終わった児童から付せんを貼り、話し合いを始めさせる。 <交流と協力> <多様な観点と見通し> * よかった点と改善点それぞれに理由を付けて話し合わせ、分析的に映像を見ることができるようさせる。 <交流と協力> <多様な観点と見通し>
終末	3 自分のグループで話し合う。 (1) 書いてもらった付せんを読み、簡単に島分けする。 (2) 良かった点と改善点を確認する。 4 学習を振り返る。 (1) 本時の反省を振り返りシートに記入し、感想を伝え合う。 (2) 次時の学習内容を考える。	5 3	○ 付せんが貼ってある模造紙から、別の模造紙へ良かった点と改善点の2種類に分けさせる。 ・ 訪問者に自分達のメッセージが分かるように発表したり、説明したりすることができたか。 (発表・話し合い) <多様な観点と見通し> <交流と協力> ○ 1～2名に中間発表会をした感想を発表させる。 ○ 付せんを書いた人と一緒にビデオレターを作り上げるというつながりの気持ちを持たせる。

(3) 授業研究の様子 (E S D の視点に立った能力や態度を育成するための手立てに沿って)

＜導入段階「本時のめあてをつかむ」＞

導入段階では、法政大学坂本旬教授がネパールの小学校へ行った時の写真 5 枚を見せた。ビデオレターを送る相手が生活習慣も文化も異なることを改めて認識させた。また、ワールドカフェ方式で前時の続きのグループからビデオレターを見ることを伝えた。

- 発表者に相手意識を持たせるとともに、訪問者にはネパールの小学生になったつもりでビデオレターを見ることを伝えることができた。また、学習に関わっていない学年 (今回は 6 年生) にビデオレターを見てもらうことで、より客観的な意見をもらえるようにすることもねらいとして授業を進めることができた。



＜展開段階「映像を見合い、ビデオレターのメッセージをより分かりやすくするためにどうすればよいのかについて付せんに考えを書いて話し合う。」＞

- ① メッセージは何だったのかをクイズ形式で答えてもらうことで、メッセージが伝わったかどうかを確認させる。

＜交流と協力＞ ＜多様な視点と見通し＞

まず、ビデオレターの内容については何の説明もせず各グループで映像を見せた。ファーストインプレッションで何を伝えたいのかを訪問者に答えてもらうことで、分かりやすく映像が作られている場面と、そうでない場面をはっきりさせた。



- 異学年での交流とクイズ形式がよかった。全く内容を知らない人に見てもらうと受け止め方が異なるのでたくさんの意見が出された。
- 発表者も訪問者も自分の役割に責任を持ち、協力して発表会を進めることができた。
- 何を伝えたくてやっているのかをグループのメンバー全員が自分のものにしていなかった。発表の練習も行ってきたが、原稿を読んでいるだけになってしまったグループがあった。発表者として、これまでの学習に主体的に取り組むことができなかったことが原因である。
- クイズの答えが準備した言葉と全く同じ言葉でなければ意味が同じでも正解にならなかったグループがあった。

- ② 訪問者には、「自分が初めてビデオレターを見る人だったら、内容がきちんと分かるかどうか」という観点で映像を見させ、付せんを書かせる。また、発表者には、見てほしい観点に沿って話し合いを進めさせる。

＜多様な観点と見通し＞

- ③ 意見を書き終わった児童から付せんを貼り、話し合いを始めさせる。

＜交流と協力＞ ＜多様な観点と見通し＞

クイズ形式の発表後、もう一度映像を流し、訪問者は付せん（赤：良かった点、黄：質問、青：アドバイス）に考えを書いた。そして、自分の考えを話しながら模造紙に貼っていった。また、時間を区切り、5年生は発表者を交代してビデオレターのセッションを進めた。

- 付せんに書かれた意見は「英語の発音・字幕が必要」という意見が多かった。5年生は全編英語で作成するのは難しい。今後、坂本教授と協力して字幕を付けることを本時の導入段階で伝えておくべきだった。
- 付せんをもらった時の切り返しの質問ができなかった。また、付せんに書いてある意見の内容を理解しているのかどうか分からない時もあり、教師が「付せんに書いてある点は具体的にどう改善すれば良いのか聞いた？どこに写真を付け加えたらいいかな？」と発表者に投げかけ、やり取りをさせた。話し合いのスキルも含め、コミュニケーションを行う力をさらに高めていかなければならないと感じた。



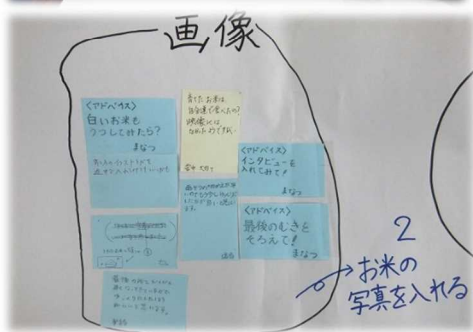
- 6年生だけでなく、参観してくださった先生方にも児童が進んで付せんを渡し、意見をいただくことができた。他校の先生方からもたくさんの意見や撮影のアイデアをいただくことができたことで、多面的・総合的に考える力を養うことができた。

- 前時と同様、一生懸命に作ったビデオレターの内容が伝わらなかったことに落ち込んでいた児童もいた。そのため、本時もたくさん意見を受け止めたことを認めるフォローの言葉が必要だった。

④ よかった点と改善点それぞれに理由を付けて話し合わせ、分析的に映像を見ることができるようになる。

＜交流と協力＞ ＜多様な観点と見通し＞

分析的に映像を見させることを通して「批判的に考える力」を身に付けさせたいと考えた。具体的に本時では、どうしてその映像が分かりやすかったのか、または、分かりづらかったのか理由を考えさせた。



- メッセージをより分かりやすく伝えるために、次時はどのような活動をすればよいのか見通しを持つことができたグループがあった。
- 本時は、「中間発表会」を何のためにやるのか理解していない児童もいた。内容を改善してより分かりやすいビデオレターを作るためにやるという目的が児童の中で薄れていた。たくさんの意見をもらい、よりよいものを作るのだという気持ちを持たせたかった。
- 付せんを分類する活動（島分け）を終盤に行った。その学習活動は6年生から付せんをもらった時点で分類することができたと思う。そうすれば話し合いながら思考・判断の場面ができるため、さらに主体的な学びになると思う。

＜ 終末段階「本時の学習を振り返る」 ＞

授業の終末には、振り返りシートを記入させた。振り返りシートを書かせるための観点は、白方小版4つの能力・態度から選んで書かせた。また、今回意見をくださった全ての方々と一緒にビデオレターを作り上げていくというつながりの気持ちを持たせて授業を終えた。

- 振り返りシートは「白方小版4つの能力・態度」から選択させて書かせてきた。しかし、本時から感想カードが裏面になったこともあり、観点を意識させることができず、学習感想をそのまま書かせたことになってしまった。具体的にどのように改善したいかという感想ではなく、発表を頑張ったという内容が多かった。
- そこで、「次に生かしたいことは？」・「今回で学んだことは何でしょう？」など、教師から課題を設定して書かせて児童の成長を見取るべきだった。

日	A/B/C	振り返りを文章で書こう。
1/10	A	① 班の人と協力して作ったビデオレターをたくさんの人にみてもらいました。よかった所やアドバイスなども教えてもらいました。次回を見通していることがよかった。次回の活動ではえいそうにはくえいより英語の活動がよいです。
1/21	A	② 6年生や先生方からもらったコメントを島分けをしました。



(4) 今年度の実践の成果と課題

①今年度の実践を振り返って

第5学年 ESDカレンダー

須賀川市立白方小学校

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語		新聞の調査のしかたや記事の書き方に目を向けよう				食を美味しくして暮らしを豊かに。環境を豊かにしよう						
算数												
社会	わたしたちの暮らし				わたしたちの暮らしと自然環境							わたしたちの暮らしと環境
理科			植物の発芽・成長・結実					流れる水のよさを				
総合						私たちの生活と環境Ⅰ			私たちの生活と環境Ⅱ			
外国語												
特活												
道徳												
音楽												
図工												
家庭												
体育												
行事												

5年生 総合的な学習の時間「私たちの生活と環境Ⅰ」（国とのつながり）

5年生の総合的な学習の時間のスタートは、「環境」という言葉を中心にしたイメージマップを描くことから始めた。児童は、水田、畑、森林、水などのキーワードを挙げていた。その中で、家庭で水田がある人数は、5年生21人のうち18人であった。児童からは、「自分達の米を作りたい」、「米の良さを伝えたい」という意見が出された。そこで、今年度は、自分達でも米を作りながら「米」について調べ、児童が主体的に学ぶ姿を大切にしながら白方小版4つの能力・態度を身に付けさせたいと考えた。また、児童からは調べたことを映像にまとめ、YouTubeに動画を投稿したいという意見も出てきて、「白方のお米の良さを世界に広げようプロジェクト」がスタートした。

ところが、震災以降、学習田での活動は行っていない。そこで、「衣装ケース」で水田を作ることになった。（以降、「学級田」と表記）バケツよりも大きく、より水田らしくなること、そして、1班1ケースを協力して育てようという理由からである。稲は3件の児童宅からいただけることになった。

米について調べ学習 ～ ポスターセッションでの発表

本校児童にとって「米」はとても身近なものであり、家庭に水田がある児童は、自分の家でとれた米しか食べたことのない児童がほとんどであった。また、あまりに身近過ぎて米作りの手伝いをしていな

い児童が多いことも分かった。さらに、インターネットや図書館で調べても分からないことがたくさん出てきたため、3名の児童が自主的に iPad を持ち帰り、家庭で農作業をする祖父母のインタビュー映像を撮影してきた。全員でそのインタビュー映像を見て、米作りに必要なことや、気を付けていることなどを学ぶことができた。同時に社会科でも米作りについて学習を進め、米作りの1年間を見通すことができた。そして、土作りから水の管理など、児童が調べてきたことやインタビューから得た知識を実際に活用しながら稲を育てることができた。

＜土作り、衣装ケースへ田植えを行う様子＞



土作りも自分達で調べて行った。赤玉土、鹿沼土、黒土を混ぜて作った。



水田は水の管理がとても大切だと分かってきたため、班で毎日分担して水やりをするようになった。



初めのうちは、なかなか稲の根が張らずに心配した。自分の家の水田と比べて観察しながら水の管理を行った。

調べ学習を進めていく中で、グループは5つになった。①米の育て方、②米の品種、③世界の米料理、④家の人にインタビュー、⑤日本での伝統的な食べ方、の5つである。調べ学習の中間発表会では、世界の米料理について調べていたグループが、ネパールも米が主食だということを発表した。担任が2年前にネパールとビデオレターで交流していたことを話すと、児童もネパールにビデオレターを作り、交流をしたいという意欲が出てきた。そこで、法政大学の坂本旬教授に来校していただくことになった。

一学期のまとめとして、これまで調べてきたことをまとめ、ポスターセッションを行うことにした。発表の原稿は自分達で考え、聞き手を見ながら話すことができるよう練習を行ってきた。そして、7月6日（木）に多目的ホールでポスターセッションを行った。発表者と訪問者を交代して行い、分かったことや新たに出てきた疑問などを付せんにかかせた。5年生は、調べたことを発表したり、友達の発表を聞いたりするのが好きな児童が多い。授業後に書いた学習カードでもポスターセッションはとても楽しい活動だったと振り返っていた。ポスターセッション後には、坂本教授がネパールの水田や米料理について写真を見せながら話をしてくださった。ネパールについてさらに興味が出てきたようであった。

＜ポスターセッションと坂本教授の話の様子＞



ゲストティーチャー①「木船さん」 ～ 稲の手入れ

これまでの学習を通して米の作り方について詳しくなってきた児童だったが、学級田の稲があまり元気そうに見えないことを気にしており、詳しい方に見ていただくことになった。そこで、児童の祖父に話を聞くことになった。木船さんには今まで調べてきて、分からなかったことや、疑問に思ったことなど、たくさんのことを質問することができた。稲の様子も見ていただき、現在は順調であることや、肥料をまくと良いこと、これからさらに暑くなると、水の管理が大変になることなどを教えていただいた。また、昔の白方地区の水田の様子も話していただいた。

＜ゲストティーチャーの木船さんの授業の様子＞



調べ学習② ～ ポスターセッション② ～ 稲刈り

2学期になり、畑に植えたスイカが実ったため、全員で試食した。担任は、スーパーマーケットで買ったスイカ（山形県産）を持ってきて、「畑のスイカと何がちがう？」と投げかけると、「白方小の畑だからとれたてで新鮮」、「遠いとガソリンが必要」、「遠いとエネルギーがかかる」、という考えが出てきた。そこから、「フードマイレージ」について簡単に教えると、児童は食料自給率や二酸化炭素にも注目し始めた。そして、5つのグループに分かれて調べ学習を始めた。①フードマイレージ、②食料自給率、③安積疎水、④米の病気や農薬、⑤環境問題の5つである。1学期よりも児童の疑問がたくさん出てきたことは良かったのだが、テーマが大きくなってしまったため、あくまでも地域の課題からそれないようにして調べ学習を進めていくよう気を付けさせた。

また、夏休み後半に台風の影響による低温が原因で学級田の稲が病気になってしまった。農薬を最後まで使わずに育てたいという児童の思いから手入れをしてきたが、最後まで病気は治らなかった。そして、少量であったが全員で稲刈りを行い、米を収穫した。

＜稲刈りの様子＞



調べたことは2回目のポスターにまとめた。前回よりも係分担がスムーズになり、短時間で仕上げる事ができた。1学期よりも児童の視野が広がったことは収穫だと思った。また、祖父母参観の白方フェスタでは、今まで調べてきたことの中から、内容を選択して伝えることになった。

ゲストティーチャー②「プラディプさん」 ～ 祖父母参観での発表

10月6日（木）には、白方小の卒業生である矢部周蔵さんがネパールに住むご家族を連れてきてくださった。（プラディプさん一家：父・母・息子・娘）そこで、話を聞いたり、簡単なゲームをしたりして交流することができた。さらに、児童は今まで調べてきた米のことについてネパールではどうなのかをたくさん質問した。とても明るいご家族で、帰る時にはお互いにとっても名残惜しそうだった。

<プラディプさん一家との交流の様子>



さらに、10月20日（土）の白方フェスタへ向けて発表の練習を始めた。「米レンジャー」というタイトルで、米について調べてきたことを劇風に発表することにした。どのようにすれば自分達の学習してきたことを分かりやすく伝えることができるのかを考えさせながら練習させてきた。また、ストーリーは低学年にも飽きずに聞いてもらうために修正してきた。当日の発表はとても大きな声で行うことができた。発表内容は家族にも好評で、発表することに自信を持つことができた。

<白方フェスタの様子>



ネパールへ向けてビデオレター作成

10月下旬からビデオレターの作成を始めた。話し合いの結果、グループは①米の育て方、②米の自給率、③米の品種、④日本での伝統的な食べ方の4つに分かれて行うことになった。

5年生児童は、昨年度アメリカと交流していた6年生のビデオレター発表会を見ていたこともあり、ビデオレターのイメージはあったものの、実際の活動は初めてであり、絵コンテの作成やビデオレターの撮影にはとても時間がかかった。アップ、バーストショット、ルーズ等の使い分けや音声の録音など、何度も失敗しながら撮影を進めてきた。特に、米の自給率のグループは、「自給率」をどのようにして表すのかについて話し合いを重ねた。「自給率」を英語で言うだけでは伝わらないかもしれないため、白方小の家庭がどのくらい地元産のお米を食べているのかを全校生にアンケート調査をすることになった。その結果、全家庭の84%が須賀川市内でとれたお米を食べていることが分かった。児童は、地産地消が二酸化炭素の排出を防ぐことや、地域を活性化することにつながることを調べていたため、白方地区の良さを発見することができた。さらに、円グラフや棒グラフなど、映像への表し方も工夫するようになった。撮影は計画的に進まないことが多かったが、どのような順序で進めていくのか見通しを立

てて一生懸命に作ることができたことは良かった。

次は、言語の問題である。5年生という発達段階では全編英語でビデオレターを作成することは大変困難である。そこで、坂本教授と相談し、児童がはっきり伝えたいと思うメッセージに関わる部分を英語で話すことにした。また、なるべく言葉を使わずに映像で伝えたいことを表現するようにすることを確認して作成を進めた。

＜ビデオレターの絵コンテ作成・絵コンテ発表会の様子＞

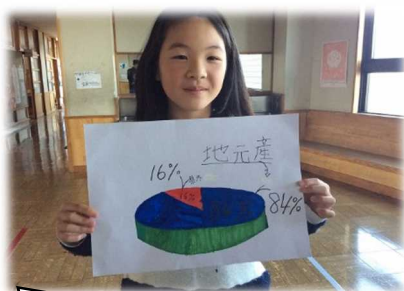


11月10日には、ESD研究発表会で6年生と合同で授業を行った。ビデオレターの中間発表会を行い、6年生や参観してくださった先生方にアドバイスをいただく時間である。（詳細は授業研究の様子を参照）発表会の結果、「英語がところどころに入ってくるのはかえって分かりにくい」、「字幕が必要」、「何を伝えたいのか分からない」という意見が多く出された。そこで、児童と話し合い、全て日本語で作成して坂本教授と担任で英語の字幕を付けることにした。

自分達で作ったビデオレターのメッセージがうまく相手に伝わらず、落ち込んだ児童だったが、教室に戻ってアドバイスが書いてある付せんをグルーピングし、解決方法を考えているうちにまた火がついてきた。また、ビデオレターが完成したタイミングで、「ビデオレターをネパールに送って、ネパールの子ども達には、何を感じてほしいのか？」ともう一度問いかけてみた。すると、「自分達が米の学習を通して地域の良さを知ることができたように、地域の良さを見つけてほしい」、「地産地消をしてほしい」という意見が出てきた。そこで、ビデオレターにそのままメッセージとして入れることになった。2学期の最終日までかかってビデオレターが完成した。

完成したビデオレターは、坂本教授がネパールへ届けてくれる予定である。また、カンボジアの小学生にも見せてくれるとのことだった。返信がとても楽しみである。

＜ビデオレター撮影の様子＞



「米の自給率」グループは、算数科を生かし、どのグラフを使えば分かりやすくなるのか考えて撮影に臨んだ。

児童は自分から坂本教授に相談し、ビデオレターについてアドバイスをいただくことができた。

12月になるとiPadの使い方にもすっかり慣れ、映像のアイデアもどんどん出すことができた。

② 白方小学校の ESD の視点に立った学習指導で育む能力・態度について

<多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力>

- 調べ学習では、たくさんの視点から米について調べることができた。
- 米が白方地区の地域の良さの 1 つであり、今後もずっと大切にしていきたいと思うものだと気付くことができた。
- フードマイレージについての調べ学習を通して白方地区は米を地産地消していることに気付き、ビデオレターで地産地消の大切さを伝えることができた。
- ビデオレターの作成では、5 年生という発達段階を考え、もっと教師が主導になって撮影方法や内容の構成に関わるべきだった。まずは、日本の小学生が見て分かりやすいものを作らないと、中間発表会がうまくいかない。
- ポスターセッションやビデオレターの中間発表会に臨む時の児童の意欲をもっと高めたい。そのためには、今まで調べてきた「とっておきの情報」を発表すること、自信を持って発表をさせるために「発表練習の時間を確保すること」、「中間発表会の意味」をきちんと理解させておくことが大切である。児童から「中間発表会をやりたい！」という話が出ればさらに主体的になると思う。

<気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度>

- グループで話し合う時間をできるだけ多く確保したことで、一人一人が自分の考えを持ち、友達に伝えることができるようになってきた。
- ポスターセッションを通し、自分達で「調べたいです!」・「発表したいです!」と、学習が主体的になってきた。また、調べたことを発表する場面では、動画を使ったり、グラフを使ったりと、聞き手が分かりやすくなる方法を自分達で考えることができるようになってきた。
- 友達と考えをつながけながら話し合うことができるようにするために、普段の授業で話し合いのスキルをもっと向上させたい。
- ビデオレターの作成に時間がかかり、発表の練習時間の確保が足りなかった。短時間で発表することができるようになることが大切だが、ポスターセッションような形態での発表を何度も経験させていくことで児童一人一人にプレゼンテーションのスキルを身に付けさせたい。

<さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度>

- 調べ学習、ネパールのご家族との交流、坂本旬教授の話を通して、ネパールの文化について知ることができた。また、自分達とは全く異なる生活をしていること、そして、その中にも「米が主食」という共通のものがあることを理解することができた。
- 日本の米がとても大切なものであることに気付くことができた。
- 白方地区が様々な条件から米作りに適した地域であること、ずっと昔からそれらの環境を守ってきたことに気付かせることができた。
- ゲストティーチャーをビデオレターに入れるというアイディアは全く出なかった。自分の家族が白方地区で米作りの伝統を守っているのだが、身近過ぎることもあり、着目させることができなかった。

<よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的・計画的に取り組む態度>

- 時間がかかったが、少しずつ自分達で役割分担をしながらポスターにまとめたり、ビデオレターを作成したりすることができるようになってきた。
- ビデオレターを初めて作成したこともあり、撮影はなかなか計画通りには進まなかった。来年度は、活動のイメージがあるため、今回よりもスムーズに進めることができると思う。